

## 農業共済新聞 千葉版

掲載号	2 月 2 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 望月篤
題名	千葉に適した飼料用米品種「べこあおば」	
備考	【表説明】 写真 台風通過直後の「べこあおば」(左)と「ふさこがね」(右)	

### 【本文】

千葉県は湿田が多いため、畑転換による米の生産調整が難しい地域です。しかし、飼料用米であれば、水田のまま栽培が可能で、新たに機械を購入する必要もありません。また、飼料用米を栽培すると、戸別所得補償制度により8万円/10aが助成されます。これらによって、平成23年は県内で1,000ha以上の飼料用米が栽培されました。ここでは飼料用米向けとして千葉県での栽培に最適な品種「べこあおば」を紹介します。

「べこあおば」は、玄米が大粒で細長く、主食用米品種と区別しやすい多収品種です。籾が大きいので、播種量を増やすことや、籾すり機を揺動式や万石式にする必要がありますが、いもち病に強く、多肥でも倒れにくいので、牛ふん堆肥を連用しているような圃場でも栽培できます(写真)。成熟期は、主食用米品種で最も晩生の「コシヒカリ」と比べ1週間程度遅くなりますが、飼料用米品種の中では早いので、8月中下旬までしか用水が使えなくても栽培が可能であり、収穫作業も主食用米品種と競合しません。また、翌年の漏生苗が発生しにくいので、主食用米品種の栽培に戻しても混種を起こしにくい特長があります。さらに、成熟期以降も倒伏に強いので、収穫を遅らせ、圃場で籾を自然乾燥させることにより、乾燥費用の節減が期待できます。

「べこあおば」の作付けにご興味のある方は、種子の入手法などについて県農業事務所にご相談ください。



写真 台風通過直後の「べこあおば」(左)と「ふさこがね」(右)